

## 2013年度 子ども教育研究所事業報告

戸 江 茂 博

DOE Shigehiro

子ども教育研究所は、国際教育フォーラム、卒業生を迎えるホームカミングデー、自閉症児の療育教室等、さまざまな活動を行いました。ここでは、国際教育フォーラムを中心に報告をします。

### 第8回国際教育フォーラム2013

2013年7月6日(土)に第8回国際教育フォーラムが開催されました。国際教育フォーラムは、児童教育分野と幼児教育分野をほぼ隔年で実施していますが、第8回は、児童教育分野を中心に、世界で活躍されている教育学者、教育実践者をお招きして、「子どもの学びを深める多様な教育～各国の特色ある初等教育から～」というテーマのもとに、世界的な広がりの中での児童教育の在り方を考えるフォーラムとしました。

基調講演は、「子どもの学びを深め、広げるための教育実践～国際的な視点から～」と題し、カナダのトロント大学附属幼稚園・小学校校長であるエリザベス・モーレイ氏が行いました。子どもの好奇心や探究心こそが、学びのスタートであること、子どもたちの協同的な学びを支えるのが教師の役割であることなど、児童教育の根幹に触れるお話をしてくださるとともに、同小学校で行われている問題解決学習の事例が報告されました。

続いてのパネル・ディスカッションは、「各国の特色ある教育実践と幼小の連携」をテーマとして行われ、カナダのイズリントン初等中等学校のティム・カミノ副校長、トロント大学附属幼稚園・小学校のリチャード・メッシーナ副校長、イタリアのモンテッソーリ教育認可幼稚園小学校のローザ・ディピエッロ校長、韓国のソウル女子大学付設ファラン初等学

校のイム・テス校長が、各国の特色ある小学校教育の取り組みや幼小連携教育について、様々な議論を交えながら熱弁してくださいました。カミノ副校長は国語教育の在り方や教員同士の学び合いについてお話しされました。また、メッシーナ副校長は子ども自身による知識の構築を励ます教育、創造的に考えることを促す教育について語られました。さらに、ディピエッロ校長は幼小一貫する教育の基本である環境、教師、子どもによる自由な選択を取り上げ、それぞれの具体的なあり方を論じられました。最後にイム・テス校長は、ファラン小学校において実施している英語教育について、コミュニケーション中心の授業の進め方や習熟度に合わせた指導の在り方について報告してくださいました。各国の教育文化による独自の取り組みとともに、教育文化の違いを超えた共通なものも見えてきました。子どもへのリスペクトの姿勢が大切であること、協同の学びこそ学びを深めるものであること、そして、幼小連携に関しては発達の連続性を踏まえ、異年齢交流や教職員の交流など、教師による学びの環境づくりが大切であることが語られました。

このディスカッションの指定討論者である、須磨浦小学校の山本義和校長、モンテッソーリ教育認可幼稚園・小学校のヴァレリア・ベネディッティ教諭、ソウル女子大学付設ファラン初等学校のファンボ・ユノ主任教諭からも様々なコメントがあり、ディスカッションが大いに盛り上がりました。

当日は、本学の学生や大学院生のほか、幼児教育関係者、教育委員会関係者、大学の研究者など、300名近い参加者があり、活発な意見交流が行われ、意義あるフォーラムとなりました。